

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。  
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

## 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立新木戸小学校	八千代市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立新木戸小学校	<a href="https://www.yachiyo.ed.jp/eniikido/gaiyo/hyouka/">https://www.yachiyo.ed.jp/eniikido/gaiyo/hyouka/</a>	

### 2. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～2学年における言語活動科の実施

国語科から11時間（2学年は10時間）、生活科から10時間、音楽科から13時間（2学年は15時間）を言語活動科に充てる。

#### (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

児童が卒業後に社会で活躍するであろう20年後には、日本は多文化・多言語・他民族の人々が、協調と競争する国際的な環境の中にあることが予想される。急速なグローバル化の進展の中で、一人一人にとっての異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になり、英語力の向上は日本の将来にとっても極めて重要となる。

八千代市では2013年度から小学校22校が教育課程特例校の指定を受け、小学1年生から4年生までの英語活動を実施している。本校は2012年度から「八千代市英語教育推進校」の指定を受け、授業実践に取り組み、成果と課題を明確にしていきながら、英語教育研究を推進している。世界に羽ばたいていく子供たちの生きる力を養うためにも、英語教育は必要である。

#### (3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日

平成31年4月1日変更

令和3年4月1日変更

令和5年4月1日変更

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

「特記事項なし」

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

#### <特記事項>

本校ホームページにて、日々の学習の様子を、写真を用いて伝えている。また、「学校だより」「校長室だより」等を通して保護者や地域住民その他の関係者に、実践の成果を伝える場を設けている。

### 4. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標は「自らの可能性を拓く子どもの育成」である。学校教育目標の具現化を図るためには、人と関わり合う力を育てていくことが重要である。学年・学級を越えた交流学習や交流活動を通して、子供同士や教師との関係も良好である。自分の意見や考え方を相手に分かりやすく伝えたり、相手の意見を理解しながら聞いたりする力が育ってきているが、状況に合わせて対応することはやや苦手である。

そこで、英語活動をコミュニケーションの大切さを学ぶ機会の一つとして捉え、その中で協調・共生できる力の素地を育成する場を設定したいと考えながら実践している。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法第18条に「二 郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養うこと」という項目がある。この項目と英語活動は、深く関わりがあると考えられる。

英語活動においては、児童のもつ柔軟な適応力を生かし、言葉への自覚を促し、幅広い英語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことが重要である。コミュニケーション能力の素地の育成を図るためには、まずは積極的に相手の言葉に耳を傾けて、相手のこと

を理解しようという態度を身に付けることが必要である。さらには、日本語とは異なる外国語の音に触れることにより、自国の言語や文化との相違を感じることも大切なことである。そうした経験を経て、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感させながら、自分の思いを伝えようとする態度を育成していきたい。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

本校の取り組みの課題は、状況に合わせて相手とのやり取りを行うこと、そして新学習指導要領の4技能5領域に即した評価についてである。相手とのやり取りの中で、柔軟に自分の意見を伝えるために、活動の場面設定をより身近に、分かりやすいものにする事で、一人一人の活動への意欲を高めていきたい。また、その中でどのように評価に結び付けていくのか、校内でその基準を設け、共有していきたい。